

大阪・玉櫛遺跡 たまくし

世紀以降一五世紀にかけての自然流路を中心に展開する集落群を検出した。

1 所在地 大阪府茨木市玉櫛二丁目
2 調査期間 一〇〇〇年度・一〇〇一年度調査 一〇〇〇年
(平12) 一月～一〇〇一年三月

3 発掘機関 財大阪府文化財センター

4 調査担当者 駒井正明・山元 建・鈴木雅美

5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・自然流路

6 遺跡の年代 弥生時代中期～中世（一五世紀）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

玉櫛遺跡は大阪府北部、茨木川と安威川によつて形成された標高

六・五m前後の沖積地に立

地する遺跡で、一九九〇年

度に大阪府教育委員会が実

施した試掘調査でその存在

が周知された。今回の調査

地は、木簡三点が出土した

前回（一九九五年度）調査

地（本誌第二一号）の北側

に位置する。主として一

(1)は墨書き部分が腐食から守られて浮き字状に残る。上端に切り込みと思しきくびれがあるが、はつきりとしない。裏面に墨痕はなく、下端部を欠損する。(2)も裏面に墨痕はなく、下端部は欠損する。



(大阪東北部)

木簡は一点出土した。(1)は、四〇トレンチの掘立柱建物に隣接する土坑四〇〇三六から出土した蘇民将来札で、一二世紀の瓦器椀を共伴する。(2)の蘇民将来札は、八〇トレンチの人為的に埋め戻された溝八〇一四七から、一四世紀から一五世紀までの土器とともに出土した。

このほか、溝から出土した一二世紀中頃の土師器皿底部外面には、中央に「鬼道」、それを取り囲むよつに「皮」、さらににはカタカナでまじないにつわる短歌かと思しき文言が記されていた。

8 木簡の釈文・内容

四〇トレンチ 土坑四〇〇三六

(1) 「蘇民将来之子孫宅

(167)×35×4 039

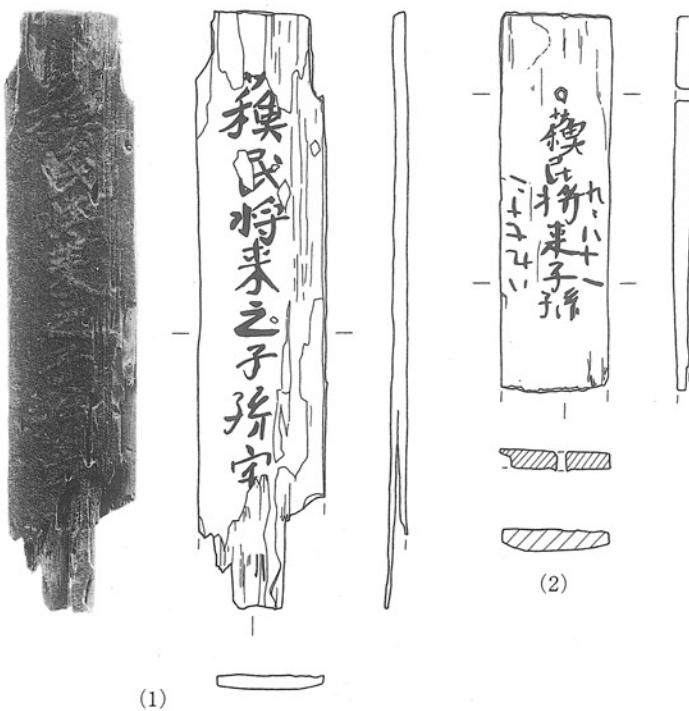
八〇トレンチ 溝八〇一四七

(106)×30×6 019

(2) 「蘇民将来子孫
九〇八十一
二十九

(財)大阪府文化財センター『玉櫛遺跡Ⅱ』(財)大阪府文化財センター
調査報告書九五、二〇〇三年)

(駒井正明)



大阪・久宝寺遺跡

所在地 きゅうほうじ
大阪府八尾市大字龜井ほか

2 1 調査期間 第二九次調査 一九九九年(平11)九月～二〇〇〇〇年一月

3 発掘機関 (財)八尾市文化財調査研究会

4 調査担当者 坪田真一

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 繩文時代～近世

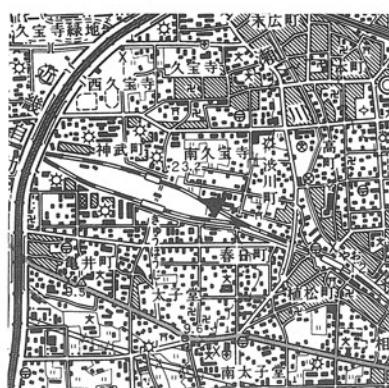
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

久宝寺遺跡は、古大和川の主流であった古長瀬川左岸の沖積地に立地する複合遺跡である。

東側には飛鳥時代創建の渋川廃寺が位置する。

調査地は遺跡南部にあたり、飛鳥時代から奈良時代までの主な遺構としては、

西部で掘立柱建物・素掘り井戸、東部で丸太分割削抜き井戸・溝・自然河川があ



(大阪東南部)